

平成27年度 県立中央高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像		・地域の進学校として、地域住民や中学校から信頼される学校（きめ細かな学習指導・進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を図る。） ・自律ある行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校（生活の基礎である基本的な生活習慣を身に付けさせる。） ・心のふれあいを大切にできる学校（魅力ある特別活動と部活動の推進を図る。）			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
○成果 ・進路実績 国公立大学9名合格 私立大学合格170名（延数） 短期大学合格6名 専修学校合格64名 公務員試験1名合格 就職内定100％達成 ・部活動実績（関東大会出場以上） ・茨城県高校陸上競技大会 男子400m 1位 ・第20回流れのふしぎ展 ウィンドカーコンテスト レーシング部門優勝・準優勝 パフォーマンス部門 日本風力エネルギー学会賞 ・第18回スターリングテクノロジー アイディア金賞 ○課題 ・家庭学習の定着を図る方策 ・明確な進路目標を設定させる方策 ・マナーやルールを主体的に遵守しようとする意欲の喚起	1 学力の向上を目指した授業の展開と家庭学習の習慣化	(1) わかる授業を展開するための指導の工夫 (2) 公開研究授業による指導技術の向上 (3) シラバスの有効活用 (4) 家庭学習の習慣化			
	2 進路指導における中央メソッドの具体的運用と充実（国公立大合格20名，就職内定100％）	(1) 課外指導の計画的実施及び受講生徒数の増加 (2) キャリア教育の充実を図り，個々の生徒により高い進路目標を設定させる (3) 進学を意識した進路指導 (4) インターンシップ，大学見学会や面談指導等の充実 (5) 進路ガイダンス，各種調査，模擬試験等の計画的実施			
	3 HR活動や学校行事，部活動への自主的な参加促進及び結果の広報	(1) 企画・運営を生徒中心にするなど，生徒の自主性を尊重した学校行事の運営 (2) 部活動の充実・強化			
	4 生徒一人一人の自律を促す階的指導の充実による規範意識の高揚	(1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的な生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) 生徒理解を深めるために教育相談等の有効活用を図る。 (4) いじめの未然防止，早期発見，早期解消に努める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	達成状況及び次年度（学期）への主な課題
教科	国語	・基礎学力の向上	・漢字や単語など小テストを実施し，基礎学力の定着を図る。 ・週末課題の設定など家庭学習の定着を図るための工夫をする。 ・日本漢字能力検定に積極的に参加し，多くの合格者を出すように努める。 ・長期休業中の課題などの読書指導により多くの本に親しませる。 ・読書感想文や各種論文のコンクールに作品を応募させたり，各種校内行事のレポートを作成させたりする。		
		・読書指導の推進と記述力の向上			
		・評価の工夫と改善	・シラバスを工夫し，適正で実効力のある評価をする。		
科目	地歴・公民	・基礎学力の定着および応用的な学力の育成	・学習内容の定着を図るため，ノートや授業で使用したプリントの提出を徹底させる。 ・大学進学を目標にしている生徒を中心に，センター試験や私大入試で高得点を旨とするための課外授業を実施する。 ・観点別評価の工夫と研究		
		・評価の工夫と改善			
		・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実	・生徒の実態・能力に応じた授業を展開する。 ・生徒の進路希望に応じて積極的に課外授業を展開する。 ・定期テストの不振者に補講を行う。 ・確認テストや発問を多くし，基礎学力の定着を図る。 ・宿題や週末課題を出して家庭学習の状況や理解度を確認する。 ・長期休業中の課題を通して，安定した学力を維持する。 ・定期試験，宿題，長期休業課題，授業態度等を適切に判断して評価を行う。		
数	学	・基礎学力の向上			
		・家庭学習時間の確保			
		・評価の工夫と改善			

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度（学期）への主な課題
教科	理科	・多角的な授業の展開	・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。 ・ICTを活用して授業を行う。 ・校外授業や放課後等の課外実験など、多彩な学習形態を試みる。 ・博物館からの資料など、多様な教材を利用して授業を行う。		
		・進学希望者への対応	・学年主体の課外の他、個別で生徒対応の指導を行う。 ・生徒の進路希望や興味関心に応じた科目選択を用意し、少人数授業を実施する。		
		・評価の工夫と改善	・観点別評価を生かした授業評価法の改善を検討する。		
	保健体育	・運動の楽しさの体験	・選択制の授業形態の充実により、様々な種目選択を可能にし積極的な活動を促進する。		
		・生涯スポーツへの継続	・自己や周囲の健康、安全に配慮し、技能や体力の向上に努める。		
		・運動をとおした体力の向上	・体ほぐし、体作りの運動を取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。		
		・評価方法の工夫	・観点別評価を導入し、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行う。		
		・自己の体力の向上	・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。		
	芸術	・（音楽）創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・視聴覚教材を有効に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を作成させる。 ・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。		
		・（美術）基礎的な技術力の向上及び芸術を愛する心情や豊かな感性の育成	・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解させ、取り組ませる。 ・素描や塑像などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。		
			・絵画、彫刻、混合技法などの創作活動をとおして芸術と生活との関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。		
科目	外国語	・基礎学力の向上	・レッスン終了時に課題や小テスト等を実施し、学習理解の状態を把握して、不十分な生徒に対しては、個別指導を実施する。またノート提出やプリント学習を通して、基本事項の定着を図る。		
		・家庭学習習慣の定着	・学習習慣の定着のために家庭学習用の課題を与え、定期的に点検し、評価に加える。		
		・実践的英語力の向上	・1年生は全員英検を受験する。合格対策として事前課外、二次受験者課外を実施する。 ・2、3年生についても、英検の受験を奨励し、合格のための支援を実施する。		
		・新学習指導要領に基づく授業の実践 ・評価の工夫と改善	・生徒の実態に合わせた指導法を考え実践し、授業内容を検討し改善に努める。 ・定期考査・実力考査・課題・授業態度や問題演習への取り組みなどを総合的に判断し、評価する。		
家庭情報	家庭	・生活を創造する力の育成	・グループワークや意見発表などを多く取り入れることで自主的活動を促し、生活に対する自分の考えを確立できることを目指す。		
		・基礎技術と実践的態度の育成	・実習・実験を効果的に活用する。また、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、主体的な実践活動に取り組めるようにする。		
	情報	・評価方法の改善を図る	・実習・実験時の活動の評価について評価表の改善を図り活用する。観点別評価の観点についても再検討していく。		
		・情報化社会への理解と対処法を身につける ・情報活用能力の育成 ・評価の工夫と改善	・Webページの具体的作成実習などにより、情報発信能力の向上とともに、情報通信にかかわる諸法規と情報セキュリティへの理解や対処法を身につける。 ・プレゼンテーション能力の向上をはかるため、生徒発表会等を実施する。 ・観点別評価を生かした授業評価法の改善を検討する。		

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題
教 務	・授業時間の確保	・チャイム始業・チャイム終業の徹底。行事や祭日等で授業が欠けた際にはスムーズな曜日変更を行う。		
	・わかる授業の展開	・公開授業等の相互研修の機会を増やし、教科指導法の工夫と研究を行い、授業の質的向上を図る。		
	・学力の向上をめざした指導の工夫	・生徒による授業評価を実施し、指導方向上の参考とする。		
	・家庭学習の習慣化	・シラバスを効果的に活用する。		
	・評価方法の改善	・成績不振者の指導と成績中位・上位者への学習意欲のなお一層の喚起を図るため、教科・学年・校務分掌間の連携を図り、学力の向上に努める。		
	・特色ある教育活動の充実	・生徒の家庭学習時間を確保するために指導法を工夫し、課題(宿題)等を計画的に与えて家庭学習の習慣化を促す。		
	・新教育課程の実践	・各教科において、観点別学習状況評価を円滑に導入し、適切な実施に向けて成績に係る内規を再検討する。		
	・教育活動の広報と生徒募集の推進	・海外との学校との交流、中国上海・韓国での語学研修、スポーツ科学コースにおける大学と連携授業など、特色ある教育活動を充実させる。		
進 路 指 導	・課外指導等の充実	・新学習指導要領の実施に伴い適切な実施と生徒へのきめ細かな対応に配慮する。		
	・インターンシップの充実と進路意識の高揚	・広報誌や本校ホームページを活用し、本校の教育活動の広報にさらに努める。		
	・進路指導内容の充実	・効果的な学校説明会・学校訪問等を企画し、平成27年度入試の生徒募集に努める。		
	・中央メソッドの充実と発展	・教員・生徒が高い目的意識を持って学校生活に取り組めるよう、年間行事の充実並びに円滑な実施のために校務分掌間の調整を行う。		
	・面談指導の充実	・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化させる。		
	・家庭、企業、大学との連携	・課外授業を充実し、より高い進路実現を目指す。		
		・放課後の平常課外や土曜課外に積極的に参加させる。		
		・インターンシップを通して就職に対する意識の高揚を図る。		
		・総合的学習の時間等を有効利用する。		
		・校外模試を計画的に実施し、その結果を次の指導に活かす		
		・大学説明会や大学見学会へ積極的に参加させ、上級学校の理解を深めさせる。		
		・進路ニュースを充実させ、精選した進路情報を提供する。		
		・中央メソッドを具体的に各学年で運用し、3カ年におたる具体的な進路計画を策定する。		
		・機会ある毎に生徒との個別面談をできるだけ多く実施する。		
		・保護者面談等の機会に充実した進路情報を提供する。		
		・大学進学率の向上を図るため、大学見学会を実施する。		
		・出前授業、卒業生による講演会、進路ガイダンス等を実施し進路情報の提供に努める。		
		・企業訪問や職場見学会を実施する。		

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

[illegible]

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題
1 学年	・ 基本的生活習慣の確立	・ 中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。		
	・ 基礎学力の向上	・ 面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。		
		・ 段階的指導を有効に展開し、落ち着いた生活環境づくりに努める。		
		・ 情報教育、情報モラル教育を徹底し、情報社会に的確に判断できるよう指導を徹底する。		
	・ 進路意識の高揚	・ わかる授業、知的好奇心を喚起する授業を展開し、大学入試に対処できる学力づくりに努める。		
	・ 特別活動への積極的な参加	・ 英国数の朝ドリルを実施し基礎学力の定着を図る。		
2 学年	・ 保護者（家庭）との連携	・ 英語の基礎力養成を図る。10月の英検（第2回）3級・準2級合格率30%以上を目指す。		
		・ 講演・講話の機会に記録・感想を書かせ、記述力の向上を図る。		
		・ 平日の放課後（週3回）、土曜日、長期休業日等に課外指導を実施する。		
		・ 成績不振者への指導を徹底する。		
		・ 校外模試の数値目標 校外模試の各科目平均偏差値45以上、平均偏差値50以上を20名、英数国各偏差値50以上30名を目指す。		
		・ 進路意識を高めるために進路講演会や出前授業を開催する。		
2 学年	・ 基本的生活習慣の確立	・ キャリア教育の一環としてオープンキャンパス参加の促進と「職業インタビュー」を実施する。		
	・ 基礎学力の向上	・ 積極的に部活動への参加を促す。ON-OFFの切り替えの重要性を認識する。		
		・ 保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図るとともに、情報の提供に努める。		
	・ 進路指導の充実	・ 中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。		
		・ 面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。		
		・ 英語の基礎力養成を図る。実用英語検定の合格者数を指標とし、3級取得者100名以上、準2級取得者20名以上を目指す。		
2 学年	・ 特別活動への積極的な参加	・ 家庭学習時間の全体平均1時間以上、特進クラス平均2時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。		
	・ 充実した修学旅行の実施	・ 進研模試の各科平均偏差値45以上、個人国数英総合偏差値（全国）50以上を、自然科学系5名以上、人文国際系10名以上、英数国各偏差値50以上20名を目標とする。		
	・ 保護者（家庭）との連携	・ 小論文指導の充実を図る。		
		・ 従来の進路講演会や出前授業などの進路行事に加え、進路別LHRや総合学習の時間を有効に活用することで進路意識を高める。		
		・ 生徒各自の進路目標を確定させ個別に努力目標を設定させる。		
		・ オープンキャンパスや公開授業等へ積極的に参加させる。		
2 学年	・ 特別活動への積極的な参加	・ 中核学年としての役割を自覚させ部活動や行事等に積極的に参加させる。		
	・ 充実した修学旅行の実施	・ 総合学習やLHRを利用したガイダンスを行うことで、充実した事前・事後学習を実施する。		
	・ 保護者（家庭）との連携	・ 保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図るとともに、進学保護者会などを実施し、情報の提供に努める。		
		・ 中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。		
		・ 面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。		
		・ 英語の基礎力養成を図る。実用英語検定の合格者数を指標とし、3級取得者100名以上、準2級取得者20名以上を目指す。		

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度（学期）への主な課題
3 学年	・生活指導の充実	・社会で通用する常識や基本的生活習慣を身につけられるよう指導を徹底する。		
	・キャリア教育の充実	・面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。		
		・進路別 L H R を積極的に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた指導を実践する。		
		・進路指導部との連携を図り、生徒全員の進路希望を実現する。		
		①国公立大学 10 名以上、日東駒専クラス・難関私大に 20 名以上合格を目指す。 常磐大学・茨城キリスト教大学等県内私立大学の一般試験合格者 2 桁を目指す。		
		②各種専門学校や医療看護系専門学校合格・就職内定の 100 % を目指す。		
	・学力の向上	・合格に結びつく面接指導、小論文指導を行う。		
		・家庭学習時間の全体平均 1 時間以上、特進クラス平均 4 時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。		
		・平常課外や土曜課外、夏期・冬期休業中の課外への積極的な参加を促すとともに、最後まで受講する指導を徹底する。部活動終了後の課外参加率 90 % 以上を目標とする。		
		・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底したりして、模擬テストを有効に活用する。		
		・大学入試に対応した授業、課外を展開する。		
	・特別活動の充実	・部活動や学校行事（今年度は特に文化祭）に積極的に参加させ、充実感・達成感を実感させるよう指導する。		
	・保護者との連携	・H P や緊急情報メールを有効に利用して 3 学年の教育活動を広く保護者や地域住民に知らせる。		
		・引き続き大学進学希望保護者説明会を実施する。		

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない